

## 定年旅行(機械工学科 1 期生 7 名の伊豆半島ミス터리ーツアー)

定年をむかえそれぞれの第 2 の人生を歩み出した仲間 7 名が 5 月 26 日～28 日 3 日の伊豆旅行に行った。一昨年 4 月に伊豆旅行を計画していたがあの東日本大震災の為自粛し、昨年は四国旅行を行い今年待ちに待った伊豆半島の旅。宇高君の綿密な旅行計画により伊豆半島一周の旅は大変楽しい旅行となった。

今からここにご紹介するのは伊豆の風光明媚な景色の話ではなく旅行中の数々の怪奇現象(ミス터리)の怖い・恥ずかしい・笑い話である。

今後、定年旅行を計画されている同僚・後輩の皆さんに怪奇現象の内容をご紹介し年寄り旅行の注意点と教訓を伝えたい。

### 登場人物

- ◆ 菅原君 (57 歳で一念奮起、社会保険労務士の試験を一発で合格。今やその風貌とは似合わない労務士先生。今年も話題豊富。北海道から参加。)
- ◆ 宇高君 (今も昔もマージャン好きのシャッターマン。今回の旅行コーディネーター。東京から参加。)
- ◆ 加藤君 (補償交渉の名人。四国鉱山の山堀男。定年後のお礼奉公を終えて 5 月 31 日付けで無事退職。新居浜から参加。)
- ◆ 植木君 (メンバーきつてのママでテキパキ人間、別の言い方ではせっかちとも言う。鉄道車輪の話をしたら止まらない。山好き。奈良から参加。)
- ◆ 森君 (髭のコンクリートマン。少し健康管理が必要。写真担当。大阪から参加。)
- ◆ 窪田君 (軽音楽・マラソンと多趣味な女性好き。平塚から今年初めて参加。)
- ◆ 大内 (ちょい悪親父。会計・旅行記担当。神戸から参加。)

### 1. 旅行前夜祭

5 月 25 日(土)は樽前会西日本支部の総会であった。今年の講演会は機械工学科 1 期生の加藤・大内などが会社総務の裏話、事故の補償問題、年金の話などを講演(雑談?漫談?)した。

懇親会終了後、原口支部長の行きつけの「北新地」<sup>きたしんち</sup>の Snackbar で 2 次会と旅行前夜祭に出陣。懇親会のアルコール、講演会も終わった安堵感も手伝い「最近トイレに行っても切れが無くなったなー」「若いころは手で押さえていないと顔にかかったものだ」などと言うホラも吹きながら「俺ら全員北海道生まれの北チンチ」など下ネタも入り久しぶりの再会で盛り上がった。

なんせ年寄り軍団、昨年の旅行の教訓を踏まえ、無理せずゆっくり行こうとの事で 21 時 30 分伊豆への中継地の四日市のホテルに向かった。四日市に着くまでの 2 時間は笑いっぱなしだった事は言うまでもない。翌朝は 7 時に朝食後、8 時に出発し沼津で東京方面から来る宇高君、窪田君と 12 時に待ち合わせをする事を確認し寢床に着いた。

ただ、ゆっくり出来たのはさんざん飲んではしゃいでいた 4 名だけ、飲まずにあほな話を聞きながら運転していた植木君は疲れて朝食の時間まで寝ていてゆっくりする間もなく再びハンドリを握り沼津へとホテルを後にした。

◆ 教訓 1 (反省 1)

- いくら植木君はお酒を飲まないとは言っても他のメンバーは、少しは自重しようとは思っていたが・・・。

## 2. タブレットとカーナビ

大内は5年前に買った携帯(ガラパゴス?)がつぶれてしまったのでこの旅行にそなえてドコモに機種変更に行った。最初は「おじんスマホ」にでもしようと思いついたが、ドコモのお姉さまの「今、タブレットをお買い求めになられますと普通携帯がタダとなります。電話やメールは携帯で、その他のアプリはタブレットで如何ですか」と巧みな話術とスケベ心で契約してしまった。購入してからも2-3回操作方法を教えてもらいに通った。

四日市から沼津までの高速は途中から新東名高速道路を走る事になった。新東名は昨年出来たばかりで植木君のカーナビにはまだ新しいデータはダウンロードされていない。そこに登場したのが新兵器、タブレットのGPSナビ機能。

植木君が「大内、新東名の入り口はどこか調べてくれ」「よっしゃ」とタブレットの音声入力のマイクに向かって「新東名の入り口!」と発声。「ナビはそのような地名は見つかりませんと言ってるぞ」「あほか、そんなのあるわけないやろ、走っている所からズート指で画面を進行方向にスクロールしたら新東名への乗り継ぎインターが見つかるからそのインターの名前を調べろと言っているんだ」。

なんとか乗り継ぎインターも見つかり無事、沼津の宇高君・窪田君との待ち合わせ場所で合流。

旅行期間中タブレットも少しは使える様になり帰り道での事。滋賀県を走っていると対向の上り車線に数十台の警察車両がランプを付けて走行していた。植木君が「大内、何か事件かも知らん、滋賀県のニュースを調べて見ろ」とのご指示に従い、また音声入力マイクに向かって「シガケンノニュース」「どや何か出て来たか?」

「……………」 「どうした?」 「志村ケンのニュースに変換された」植木君・加藤君に旅行の締めくくりの大笑いをされてしまった。

◆ 教訓 2

- タブレットを使う前に発声練習をしなければならない。
- 新しい物は使い慣れてからみんなの前で使おう。

## 3. 旅行の下準備

旅行好きの清君は旅に出る前、苫小牧の市立図書館で伊豆のガイドブックを借り家に帰り本と宇高君から届いた旅行計画表を広げ早速旅行の予習に入った。ところが本のどこにも宇高君の立てた予定地が見当たらない。我々が旅行するのは「伊豆半島一周」清君が借りてきたのは「伊豆七島ガイドブック」、「伊豆」の文字だけで手をだしてしまったらしい。

車の中でそんな告白を聞きながら城ヶ崎の岬に着いた。そこからは沖合に伊豆七島を望む事

が出来た。みんなが「清、あの島のなんて言うんだ?」「真ん中の大きなのが伊豆大島だべ」「右隣りは?」「知らん」「勉強したんじゃないのか?」

◆ 教訓 3

- この歳で勉強するという意気込みは買おう。
- 城ヶ崎の門脇灯台の伊東市職員さんが「伊豆七島は1月2月の気温が4℃以下、天気が良い少し風がある時が一番よく見える。今頃は海水の温度が上がり水蒸気となってあまりはっきり見えない」「条件によっては東京スカイツリーも見える場所もある」と説明してくれた。綺麗な伊豆七島と富士山、東京スカイツリーを伊豆から見たいものである。以上、次回旅行の予習でした。

#### 4. 窪田君、城ヶ崎 歌手デビュー

城ヶ崎の岬、そこには懐メロ黒沢明とロス・プリモスの「城ヶ崎ブルース」の歌碑が建っていた。その横で観光客の女性がそのメロデーを小さな声で口ずさんでいた。軽音楽を趣味とし歌には自信がある窪田君が図々しく横に並び一緒に歌い始めた。

♪「ゆかねばならぬ 男がひとり ゆかせたくない 女がひとり ふたりの恋の  
城ヶ崎 吹けよ匂えよ 湯の花すみれ あしたのことは 言わないで」♪

歌い終わる頃には他の観光バスの客も集まり拍手喝采まではいかなかったが楽しい思い出の岬となった。

その晩のカラオケ大会で勿論みんなの前で再度歌う事に。

岬で聞いた時とは違う様に聞こえたのは綺麗な城ヶ崎の風景にごまかされていたのかも知れない。

◆ 教訓 4

- ボケ防止の為には何にでも積極的に取り組むべし。
- ♪「ゆかねばならぬ 男がひとり こさせたくない 女がひとり  
ふたりの歌の 城ヶ崎 楽しく歌えよ 岬のふたり あしたのことは  
わからない」♪

#### 5. カラオケ審査員大会

旅行の企画を立ててくれた宇高君が勤めていた会社の保養所に泊まらせてもらった。建物・内装・中庭、そして大浴場温泉と美味しい食事。そこいらのホテルと比べ物にならないくらい素晴らしい保養所であった。

泊まったのは日曜日の夜と言う事もあって他の宿泊の人はおらず貸切状態であった。食事後娯楽室でカラオケ大会をしようと言う事になった。

これもまた素晴らしい娯楽室で壁一面には毎年発行していると言う「マリリン・モンロー」

の写真を使ったカレンダーが年代別に飾られていた。若いころ、熟年になったモンローの前で記念写真を撮ったのは言うまでもない。

歌のスタートは岬でデビューした窪田君。加藤君、大内と続いた時、植木君の「おい、もつとまじに歌えるやつはないのかー？」

そのひと声でその場の雰囲気は一変した。

人の歌を聞くカラオケ大会から、人の歌を講評する審査会と化した。

「植木の歌、聞いたことあるか？」「ないなー」「俺は歌った事がないんや」「それじゃ聞いてやる」そんなやりとりがあって、車の中でいつも聞いているだけの歌だけどとの注釈の後、えらい若い歌を歌い始めた。

歌っている最中から審査員の厳しい声が「うーん、何か物足りないねー」「何か少しだけスペースがほしいなー」「一応字は読めるようだな」。

普通は歌い終わってから審査員は講評するものであるがそれ以降も歌っている最中に笑いの受け狙いで歌手そっちのけでの審査大会となった。以下主な講評をご紹介します。

「ほとんど良いんだけど、うんーおしいなー」

「作詞家が狙っている詩の意味を理解して歌って欲しいねー」

「何を歌っても同じ歌に聞こえるなー」

「あんた、少し自信をつけたようだね」

「楽な選曲をしたねー」

「伊豆地区のど自慢大会の予選通過は難しいねー」

旨い下手は関係なしに「長い歌だなー」等々。

どこかのカラオケに行って他のお客さんの講評をしたら殺されそうな内容で延々2時間半、最後は全員で「高校三年生」を「高専五年生」に変えて楽しく合唱し、今度は講評なしでカラオケ審査大会を閉会した。

壁一面のモンローはたぶん「仲が良いのか？悪いのか？この日本人グループは良く理解出来ないわね」という講評だったに違いない。

#### ◆ 教訓5

- いつもは「うまい！さすが」とか言って拍手を送っているけど、案外いつも心で思っている本音が、気遣いも必要のない仲間がこの時とばかりにと出していたのかも知れない。
- 来年はもう少し品の良い講評を考えておこう。

## 6. 堂ヶ島温泉のミス터리

伊豆の2日間は温泉三昧だった。1日目の道中は赤沢温泉の日帰り温泉ホテルに立ち寄り、伊豆の海が一望できる12階にある大露天風呂に入って感激。

2日目は堂ヶ島温泉へ。堂ヶ島海岸では天然記念物の天窓洞を船で遊覧しその洞窟の中のエメラルド色の海にまたまた感激。

船から宇高君があそこに見えるのが今日泊まる「堂ヶ島温泉ホテル」で海に面して天然かけ

流し露天風呂があるとの説明。宇高君の旅行コーデネイトに大感謝し船を降りホテルに向かった。

一息ついてみんなで大浴場と露天風呂に行く事になった。

ここからが「月曜サスペンス劇場 堂ヶ島温泉の怪奇」の始まりであった。

大浴場と露天風呂は100メートルほど離れていて最初に大浴場に入る事になった。みんなそれぞれ脱衣籠に浴衣や下着を入れて浴槽へ。ぬるぬるすべすべした温泉の感触を味わい昨日、今日の楽しかった話題に花が咲き少々長風呂になり今度は露天風呂に行く事になった。

露天風呂には一度中庭を通るので裸では行かれないので浴衣を着てからと言う事になる。

着替えていると加藤君が「清、そのパンツ俺のパンツと違うか?」「なんでよ、ここおれの籠だべや、自分のパンツの色わからんのか?」

その会話を1つ向こうの列で聞いていた森君が「おーい加藤の籠は1列こっちの俺の横にあるぞ」「え、ここで脱いだとおもったがおかしい、誰かが移動したのかなー、不思議だ」。

それから露天風呂に向かった。評判の通り海がすぐそこに見えるすばらしいロケーションの露天風呂であった。夕食時間も近づいたのもう少し浸かっていたい気持ちを抑えてあがることになった。

脱衣場で今度はパンツを履いた清君が「あれー?俺の浴衣がないぞ、誰か間違えて着て行ったみたいだべや」たしかに籠の中は清君のシャツ、とバスタオルのみで浴衣が無くなっている。

「ほら、なんかここは不思議な事が起こるだろう」と加藤君。

そのままでは帰れないので早く着替えていた宇高君がフロントで事情を説明し新しい浴衣を借りて来た。

それからは風呂上がりの楽しい食事、金目鯛の煮付・海老など沢山の伊豆の幸に大満足。

窪田君は若い仲居さんのあずさちゃんに「あずさ何号?」などとちゃかして大満足。

夕食後テレビを見てゆっくりした後、風呂好きの清君と大内は再び露天風呂へ。

脱衣場に行くと1つの籠の中に浴衣が見え、「入っているのは一人だけやからゆっくり入れるな」と暗い渡り廊下を通って露天風呂に着いた。しかし露天風呂には誰も入っていない。「おい本当に不思議な事が起こるな?入ってきた時スリッパあったか?・・・海に引きずり込まれたのかな?・・・」

テレビドラマのサスペンス劇場温泉シリーズ「堂ヶ島温泉露天風呂の怪奇」のシーンが頭をよぎった。

#### ◆ 教訓6

- 脱衣場に行った時はちゃんと自分の籠の位置をしっかりと覚えておこう。温泉によっては籠に番号を書いているので見るのを忘れずに。
- 浴衣を脱いで人の籠に入れてパンツ・シャツ・バスタオルだけ自分の籠に入れるのだけはやめよう。
- 怪奇現象は自らが作り出す事を自覚しよう。

## 7. 菅原清君、携帯電話不明事件

今年もやってくれました。昨年のメガネ紛失事件に引き続き今年は、携帯電話行方不明事件。

朝風呂に入り朝食前のひと時テレビを見ていると隣の部屋のから「おーい、みんなおれの携帯に電話してくれや、今年は何もなかったと安心していただけ今度は携帯電話が見つからないべ」と言いながら清君が部屋に入ってきた。

早速、宇高君が電話をするも部屋の中にはその反応が無い。

去年のメガネ探しは、みんなは適当にその辺を見渡し「ないなー、そのうち出てくるだろうから朝めしの後にしょうや」と言う事になったが、今年は朝食まで時間があつたのも手伝って早めに行動を取る事になった。

なにせ社会保険労務士の大先生、旅行中にも3-4本電話があり仕事の対応をしていた。先生にとって携帯電話は事務所と一緒に、無くしたら仕事に差し支えるのは必至、皆で協力して探そうと言う事になった。

「先生、見つかったら何を奢ってくれるんですか?」「それは見つかった時に考えましょう」。

まず朝起きてから今までの行動を宇高君が本人に事情聴取。

- ① 朝5時30分に起きて植木君・大内君と50分程堂が島海岸を散歩した。
- ② その途中、コンビニに寄って、タバコとペットボトルのお茶を買った。
- ③ 海岸のベンチに座ってタバコを一服、お茶を飲み帰って来た。
- ④ 汗をかいたので朝風呂に大内君と行った。
- ⑤ 部屋に帰って来て携帯が無いのに気が付いた。

以上が清君の朝の行動であった。参考人として植木・大内も事情聴取を受けた。

捜査会議の結果、

「散歩中、清君は携帯のカメラで景色を撮っていたのは大内が見て確認している。おそらく、コンビニで買い物の時か、海岸のベンチか、風呂場か、散歩で歩いた道端に落としか」の4点に絞られた。

それから早速捜査活動始まった。

植木捜査官はフロントに届いていないかの確認と朝の散歩コースの途中のコンビニに寄って散歩コースを回って帰って来る。

宇高捜査官は誰かが拾っている事を想定して電話をかけ続ける。

捜査官兼被害者?清君はお風呂の脱衣場を確認し散歩の逆コースを回り海岸のベンチへ。

大内は旅行最終日の朝なので会計締めで忙しく捜査には参加できず。

他のメンバーは傍聴席で事態をじっと固唾をのまず見守る。

15分程して電話を掛けていた宇高君が「あつたぞ」「誰か拾ってくれたんか?」「いや本人が電話に出た、携帯は海岸のベンチの上でブルブル震えていたらしい」捜査員もホット一息。

しばらくして清君がさっきとはうって変わった顔で帰って来て「イヤー、飲みかけのペットボトルだけ持って帰って肝心の携帯をベンチにおいてきたべや」

傍聴席から「先生、何を奢っていただけるのですか?」「自分で見つけたから関係ないべや!」

◆ 教訓 7

- 携帯には折角首に吊るす長～いストラップが付いているのだから、首に掛けるのを忘れないようにしよう。
- 去年はメガネ・今年も携帯。来年は旅行の約束自体忘れないか心配。

まだまだミステリーはあったが伊豆半島の旅は笑いに溢れた楽しいものとなった。

来年は母校苫小牧工業高等専門学校の開校 50 周年であり記念式典が苫小牧で開催される。

記念式典に参加後、道内 1 泊旅行の約束しそれぞれ帰宅の途についた。

登場人物以外の方々には本当にどうでも良い話で恐縮します。お付き合い頂きありがとうございました。

以上

平成 25 年 6 月 21 日

旅行記担当 大内

恋人岬（晴れていれば富士山が望める）



窪田君歌手デビュー



城ヶ崎海岸（もっと晴れていれば伊豆七島が望める）

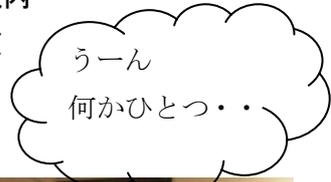


堂ヶ島海岸 天窓洞

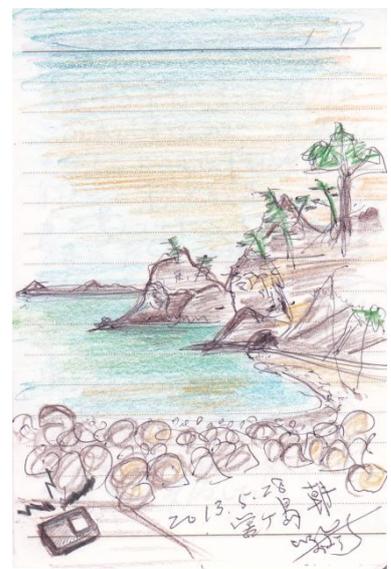
伊豆の保養所での楽しい夕食



森 窪田 宇高 大内  
加藤 植木 菅原



モンローの前で熱唱、その前で審査講評



携帯ブルブル（堂ヶ島海岸 朝の散歩）